

弘前市誕生130周年特別企画

# 懐かしの風景

—あの場所はいま—



▲大正～昭和初期

中央に見える三角の搭屋は明治42年（1909）に建てられた「角み宮川呉服店」、その右に写る半円の搭屋は大正12年（1923）に建てられた「角は宮川デパート」。手前はしゃれた街灯付の橋のようです。



▲現在

手前に見えるのは土手町にある蓬萊橋の欄干です。かつて「角み宮川呉服店」や「角は宮川デパート」が見えた方角には、銀行などのビルが建ち並び、道路にはたくさんの車が通り活気に満ち溢れています。

## 地域おこし協力隊の活動報告

File.6

地域活性化のために日々活動している「地域おこし協力隊」の隊員の活動を毎月紹介します。

■問い合わせ先 企画課（☎ 40-0632）

私は元々鉄が好きで、趣味で刃物製作を行っていました。将来、何か刃物に関わる仕事をしたいと思っていた修士2年の就職活動時に、この地域おこし協力隊の募集を見つけました。応募した時は試験があるとは知らず、書類選考後に知って心配ましたが無事合格し、大学院卒業後に協力隊に着任しました。

現在は主に津軽打刃物としての技術習得および津軽打刃物のPRを行っています。基本的に業務の9割以上は技術習得のため、ほぼ毎日工場で作業をしています。作業は主に熱した金属を叩き、冷やし、研磨をしていきます。「鍛冶」と聞いて多くの人が思い浮かべるもので間違いないと思います。



私が平成30年に活動を開始して丸1年。これまでを振り返りながら、地域づくりへの思いをつづります。

地域おこし協力隊（打刃物職人）  
**花村英悟さん**  
(静岡県静岡市出身)



取材がメインです。ナイフショー等への出展は主に東京で行っています。メディアの取材はテレビ、ラジオ、新聞などがありますが、ごくまれに講演も行います。

弘前に来て、自然が豊かだと感じました。小動物が好きなので、自然が多いのはとても嬉しいです。あまり外出をしませんがタヌキやキジ、昆虫などを観察する機会に恵まれ、良いサンプルが取れてありがたいと思っています。しかし私は寒さに慣れていないので冬は辛いです。特に雪はバイクでの移動が主な私にとって中々大変です。



地域おこし協力隊としての任期はあと2年ですが、今の活動期間のなかで、できる限り津軽打刃物の技術を習得し、商品として世に出せる刃物を作れるようになりました。

時々行う津軽打刃物のPR活動は、ナイフショー等への出展およびメディアの

市内各地で行われたイベントやまちの話題をお届けします★



# ひろさき

りんご公園サマーフェスティバル



7月28日 りんご公園（清水富田字寺沢）

2 回目の開催となった今年。水鉄砲合戦や金魚ねぶたうちわ作り、草刈り機の乗車体験など親子向けのさまざまなイベントが開催されました。水鉄砲合戦では大人対戦も行われ、お父さんやお母さんの白熱した戦いに子どもたちが歓声を上げていました。



高岡の森弘前藩歴史館夏休みイベント



7月27日・28日 高岡の森弘前藩歴史館（高岡字獅子沢）

夏 休み企画として開催されたイベントでは、甲冑（レプリカ）の着付けなど普段はできない催しが行われました。中でも、抜刀術演武・据物斬りでは、見事な剣技が披露されました。

大森勝山じょうもんまつり



8月4日 大森勝山遺跡（大森字勝山）

遺 跡を舞台にした体感イベントが開催されました。世界文化遺産推薦候補に選定されたこともあり、縄文生活体験や遺跡の見学会が行われた会場には多くの人が詰めかけました。

ちびっ子ねぶたのお通りだい



7月28日 土手町通り

弘 前ねぶたまつりの幕開けとして開催されました。気温30度を超える暑さの中、「ヤーやドー」と声を上げながら一生懸命に練り歩く園児の姿に、沿道の観客が拍手を送っていました。

誘致企業体験ツアー



8月9日 センチュリーテクノコア（清野袋3丁目）ほか

小 中学生を対象とした初めての誘致企業体験ツアー。普段目にすることのできない工場の内部を見学したり、プログラミングを体験したりしながら、仕事について楽しく学びました。